

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の無限の可能性 (No Limit) を引き出し、自己肯定感をはぐくむことにより、

本校に入学した生徒の全員が学業に部活動に学校行事にがんばって卒業する学校、生徒それぞれが自己実現を果たし希望の進路に向かって歩めるような学校をめざす。そのために、学力向上にしっかりと取り組む。また、個に応じた教育を推進するとともに、一層きめ細かな指導を行い、基礎学力を確実に身につける教育を実施し、卒業時には生徒全員が自己実現できる夢と希望に溢れる学校になることをめざす。

1. 生徒の笑顔が溢れる学校
2. 保護者や地域から信頼され地域に貢献し愛される学校
3. 生徒の夢と希望を育み自己実現がかなう学校

2 中期的目標

(1) 生徒の無限の可能性 (No Limit) を引き出し、自己肯定感をはぐくむことにより、入学した生徒が全員ががんばって卒業できる学校にする。95%以上の卒業率をめざす。

- 生徒の良いところ、伸びるところを引き出す指導の在り方を研究し、実践に移し、生徒の自己肯定感を育むように全力で取り組む学校にする。
- (2) から (6) の目標によって、「魅力ある学校づくり」「面倒見のよい学校づくり」を推進し、「入学した生徒が全員ががんばって卒業できる学校にする」ための方策とする。
- 教育相談システムを充実させ、生徒の状況を把握し、よりよい方向へ導くような取り組みを充実させる。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用など外部機関との連携を密に行う。
- 学校生活支援チームを充実させ、退学防止へ全校一丸となるように取り組む。

(2) 確かな学力の定着へ向けた取り組みを推進する。

導入した専門コースの一層の充実を図り、看護系及び保育系の進学希望者の進路を実現させる。

2年次及び3年次の専門コースの各科目、教養コースの各科目の教材開発を継続して行う。

○「分かる授業」の推進

1年生、2年生で実施している国語、数学、英語で習熟度別授業について、常に、学習の到達目標を見直すと共に、さらなる効果的かつ有効的な授業展開の工夫改善に取り組む。大学進学者30名以上を定着させ、近畿大学以上に合格させる。

○専門コースの充実 看護系・保育系の希望者を90%以上合格させる。

「環境科学コース」・・・理科系に興味のある生徒を集め、その能力を高める。ホテルの人工飼育、農業体験等との関連付けにより、自然環境を守る意識をもつ人材を育成する。看護系の針路に対応できるカリキュラムを開発する。

「国際文化コース」・・・4年制大学への進学希望者に対して大学で学ぶ意欲を引き出すと共に大学へ入学後、授業について行ける学力を身につけさせる。日本の伝統や文化についても学び誇りを持つ人材を育成する。保育系の針路に対応できるカリキュラムを開発する。

○学校設定のコースの授業の充実

義務教育段階の数学(算数を含む)、理科等の学び直しを行い、社会に出て困らないための基礎学力を徹底して定着させる取り組みを行う。就職希望者の3月末決定率95%を定着させる。

○漢字力、英語力の開発及び定着

漢字力の定着

1年生終了時に全生徒に漢字検定を受けさせ、漢字力について全国標準の力と自信をつけさせる。4級以上の合格者を50%以上とする。

英語力の定着

2年生終了時に全生徒に学力に応じた英語検定を受けさせる。全員4級以上の修得を目指す。全国標準の力と自信をつけさせる。

○モジュール授業やグループ学習など

基礎学力の定着に資する、モジュール授業を教養科の授業以外にも導入する。またグループ学習などを取り入れた教育活動を行う。そのため先進的な学校への視察などを行う。

(3) 部活動の活性化 加入率50%をめざす。

○部活動による指導により、生徒の社会性・自主性を涵養する。

○部活動加入率をあげることにより、学校に対する帰属意識を醸成する。

(4) 生徒が個々に抱えている進路目標を達成すべくキャリア教育の充実に取り組む。卒業時には進路未決定者を0にする。

○3年間を見据えた指導計画によるキャリア教育を充実させる。

○就職希望者は100%の合格をめざし、徹底した学力をつけさせる。

○大学進学も十分可能であることを1年生から自覚させ自身を持たせるとともに目標に向かって学習する意欲を引き出す。

○グアムへの修学旅行を実施し、グアムの高校生徒との国際交流を推進し定着させ、生徒のグローバルな視点を持たせる。

(5) 環境教育の推進及び地域貢献をおこない、地域にはなくてはならない学校となる。保護者による認知度を80%以上にする。

○居心地のいい学校となるように、花壇の充実やベンチの設置推進など、学校のオアシス化によるコミュニケーション能力の涵養を図る。

○ホテルの人工飼育や農業体験などにより地域やとの交流を推進し、関係諸機関と連携し、環境を守る人材を育成すると共に地域の環境保全の核となる。

○ハートピア泉北(老人介護施設)や太平寺幼稚園、福泉中央保育所など地域の施設との交流を推進し地域に根を張ると共に、生徒のコミュニケーション能力や自尊感情を養う。

(6) ICTの活用 分かりやすい授業を実現し授業満足度80%以上にする。

○全ホームルームクラスに導入した電子黒板を活用する授業を積極的に応援し、分かる授業の取り組みを推進する。

○教材を共通のコンテンツとして電子データで作成し、同一の教科で同一レベルの教科指導が行えるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>平成 27 年 1 月実施分の評価を経年変化でみるために、①よく当てはまる②やや当てはまる③あまりあてはならない④まったく当てはまらないの内、①+②の合計%を平成 23 年度、24 年、25 年、26 年度順に示す。</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・問 2 授業はわかりやすく工夫されていると思う。 子どもは授業がわかりやすいと言っている。 生徒：25年度より調査65%→26年度66%</p>	<p>第 1 回学校協議会 (平成 26 年 6 月 2 日)</p> <p>○全学年 7 クラス募集 8 展開した学校の様子について</p> <p>・校内視察を終えての感想は、昨年と比べて全体的に落ち着いていて、良い雰囲気での授業をしていると感じた。教員がしっかり指導していた。</p> <p>○「大学進学対策室」を設置して大学進学者を増やしたいという目標に対して</p> <p>・生徒自身が進学するためのプランをたてる必要がある。</p> <p>・確かな学力を定着させ、個人に応じた進学指導を、新しい体制で実行していけば、進学増は可能である。</p>

府立福泉高等学校

<p>保護者：53%→49%→70%→67%</p> <p>平成25年度全クラスに電子黒板を導入したが影響しているのではないかと推察する。導入以前との格差が歴然としている。</p> <p>・問3 進路や興味・関心に応じた選択科目やコースが設置されている。</p> <p>生徒：50%→60%→72%→76% 保護者：51%→60%→76%→79%</p> <p>教職員：41%→64%→69%→54%</p> <p>平成24年度から実現したコース設置の意義が実感されている。教職員の評価の低下は、学校の課題が進路実現に向かってきていることによる意識の変化ではないかと考えられる。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・問5 先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる。</p> <p>生徒：34%→50%→64%→70%</p> <p>学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。</p> <p>保護者：63%→62%→82%→83% 教職員：25年度より調査 90%→83%</p> <p>カウンセリングマインドの養成など平成26年度も真剣に取り組んだ結果であると受け止めている</p> <p>・問8 クラブ活動や生徒会活動は、同じような状況の他校と比べて盛んだ。</p> <p>教職員：48%→39%→41%→30%</p> <p>4年間の部活動加入率はほぼ同じであるが、部活動の充実に教職員の視点が変わったことは、よい傾向であり、課題解決の出発点である。</p> <p>・問6 悩みや相談に応じてくれる先生がいる。</p> <p>子どものことについて気軽に先生に相談できる。</p> <p>生徒：40%→46%→65%→73% 保護者：59%→60%→74%→73%</p> <p>【学校運営】</p> <p>・問1 学校へ行くのが楽しい。</p> <p>生徒：23年度64%→24年度68%→25年度70%→26年度73%</p> <p>子どもは楽しく学校へ行っている 保護者：80%→84%→80%→86%</p> <p>生徒は学校へ行くのが楽しそうだ 教職員：83%→72%→76%→78%</p> <p>学校経営計画の方向性の正しさを評価いただいたものとする</p> <p>・問9 国際交流（グアムの学校との交流）や環境教育（清掃活動やホテルの人工飼育）などが盛んである。</p> <p>生徒：43%→67%→77%→77% 保護者：73%→77%→90%→94%</p> <p>国際交流（グアムの学校との交流）や環境教育（清掃活動やホテルの人工飼育）を推進しているは良いことだ。</p> <p>教職員：59%→58%→46%→60%</p> <p>グアム修学旅行とホテルの人工飼育について生徒や保護者には、本校の特色として浸透してきている。教職員の評価は、生徒・保護者と乖離がある。</p> <p>・問11 学校は、保護者の願いによくこたえており、対応が良い。</p> <p>保護者：54%→65%→82%→82%</p> <p>・問12 子どもを福泉高校に入学させて良かった。</p> <p>保護者：74%→77%→91%→88%</p> <p>生徒の結果について全て4年間を通じて肯定的評価が増加している。保護者については、前半2年の評価と後半2年の評価を比べると断層があるほど高い評価が定着した。昨年との比較ではトータルで見れば現状維持となっている。教職員の評価は低下しているが、原因は、学校が良くなり、生徒の笑顔があふれるようになってきたことなどを背景に、充実すべき課題について目を向けるようになってきた証であり、より一層の飛躍を期すチャンスであると考えられる。</p> <p>生徒及び保護者の高い評価は、①コース制の導入、グアムへの修学旅行【今年のグアム修学旅行後の参加生徒のアンケートの集計結果では、「今回のグアム修学旅行はどうでしたか。」という問いに対して、よかった76%、まあよかった16%、ふつう8%、あまりよくなかった0、よくなかった0であり、圧倒的な支持を参加生徒から得ている。】や国際交流、ホテルの人工飼育などによる地域交流などと共に、②「ほめて育てる」「励まして育てる」という教職員の姿勢が定着してきていること③校舎内でのベンチや観葉植物の増加等によるアットホームな環境を作り出していることによる生徒の自己肯定感の増加が背景にあると考える。加えて、昨年度よりの全クラスの電子黒板の導入による「わかりやすい授業」の推進、今年の全学年7クラス募集8展開によって、教室の混雑感が軽減し、一人ひとりの生徒に対する学習指導、生活支援、注意喚起などの指導がきめこまくなされていることに対する生徒の満足感ではないかと考える。</p> <p>全体として学校経営計画の推進継続を支持する結果となっている。</p>	<p>○花いっぱい運動など環境整備について</p> <p>・校内に花や緑が多く見られるが、子どもの情操教育には必要である。</p> <p>・子どもは冬のイルミネーションや、春のひな人形・武者人形などが飾られることを楽しいと話している。</p> <p>○全般的に</p> <p>・学校は色々と工夫をして努力をしている。今度は生徒達が期待に応じて、結果を出してほしい。学校がどんどん良くなっていると感じる。協議会としてもやりがいを強く感じます。</p> <p>第2回学校協議会（平成26年10月1日）</p> <p>○校内視察をしての感想について</p> <p>・全学年8クラスにした結果として、懲戒件数の減少は画期的なことではないか。校内視察をしての感想は廊下に設置したベンチにイタズラされることもなく、授業も落ち着いている。こうした成果が現れていた原因の分析をする必要がある。また書道の授業でプロジェクターを使用しているのに感心した。</p> <p>・クラス人数が減ること（7クラス8展開にしたこと）により担当者の目が行き届き易くなっている。生徒も教室の空間に余裕ができ、勉強に取り組み易くなった。ただ、教員の時間数が増加したり、担任数を確保するために色々と問題がある。</p> <p>・教員も気持ちに余裕を持って授業しているように感じ、学校経営計画の成果が現れています。また、今後も将来に向けて活かせる「力」をつける指導が必要です。</p> <p>○電子黒板の活用について</p> <p>・電子黒板を使った授業がずいぶん増えているが、教材は共同で開発をして学校に蓄積していけばよい。その分教員の負担を減らし、さらに力量アップができる。</p> <p>○PTA活動や地域の連携について</p> <p>・PTAの活動が活発に行われているが、学校や子ども達に良い影響を与えているのでは。</p> <p>・PTAの活動をたのしくさせていただいている。子どもも学校が楽しいと言っている。先生方も一生懸命取り組んでいただいている。電子黒板を活用されるなど色々な取組みをされています。</p> <p>・地域として雨天の車の送迎以外に迷惑していることはない。</p> <p>○グアムの修学旅行について</p> <p>・是非継続してください。</p> <p>○生徒支援の充実について</p> <p>・SSWやSCなど外部機関も活用して、よりよい学校をめざしてがんばってください。</p> <p>○全般的に</p> <p>・色々な取組みについてその結果や成果を分析し、不必要な物は削るなど見極めることが大切。</p> <p>・登校している生徒や指導に従っている生徒には単位認定をして、学校経営目標通り入学した生徒は卒業させるべき。これを定着させてほしい。</p> <p>第3回学校協議会（1月27日）</p> <p>○「平成26年度学校評価及び平成27年度学校経営計画」について</p> <p>・成果が出ているので、計画の推進継続をしてください。</p> <p>・全学年多クラス展開によって、生徒も先生方も共に気持ちに余裕が生まれている。特に、先生方は、他の府立高校で実施できていないこの取組みを誇りにして、一層職務に精励していただきたい。</p> <p>・「校長は教育理念や学校運営を明らかにしている」について教員の肯定が多い事は素晴らしいことだ。</p> <p>・柔軟でよい発想をする若い人材の意見を取り入れて計画を推進してもらいたい。</p> <p>○自己診断アンケートの回収率について（生徒83.9%保護者23.9%教職員91.8%）</p> <p>・教職員はアンケートで意見を述べてもらいたい。全員回答を要望します。</p> <p>・保護者の回収率をあげる努力をしてもらいたい。</p> <p>○「進路に応じた選択科目・コースが設置されている」で教員の肯定が少ない理由</p> <p>・進路実現をめざすには、「このままでよい」と考える教員が少なくなったことを表している。肯定が減ったのは、よい傾向で意識が進路に強く向かう段階に学校が落ち着いた証であり、次の課題が明白に意識されるようになったのでこのような数字となっていると考える。</p> <p>・校長が進めてきた様々な成果が、教員と生徒との意識の差となって現れている。次のステップに進むことが大切だ。さらに人材を育成し何事にもチャレンジする精神が必要だ。</p> <p>○遅刻が多くなっていることについて</p> <p>・携帯使用過多による生活リズムの乱れや、アルバイト後の夜遊びなどが原因と考えられます。</p> <p>・遅刻が多いのは、子どもより先に親が仕事に行くのも原因の一つかもしれません。遅刻を減らす努力は、保護者もしなくてはならないと思います。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 卒業できる学校 全員ががんばって	1. 生徒の無限の可能性を引き出す 2. 学業にがんばらせる 3. 教育相談の一層の充実	1. 「ほめて育てる」「励まして育てる」あり方を常に心がけ、生徒の自尊心を育む ・一層の「魅力ある学校づくり」「面倒見の良い学校づくり」のため(2)～(6)の中期的目標達成の為、「自尊心をはぐくむ」親切的な指導の在り方をOJT等により一層推進する。 2. 全学年募集学級+1学級による少人数展開(35名学級)授業による、きめ細かい教科指導、学級指導を行う。 ・目標をもたせ、規範意識を涵養し、努力して進級・卒業させる。 3. スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用による、生徒支援・生徒理解の推進する。	1. 学校教育自己診断による学校に対する満足度に対する指標を平成25年度の保護者満足度90%以上を維持する。学校に行くのが楽しいという生徒を平成25年度の70%以上を維持する。 2. 全学年、募集学級+1学級による少人数展開授業を平成27年度も実施する体制を整えることができたかどうか。 2及び3. 退学者・留年生・懲戒処分者を前年度比20%減とする。	1. 保護者の満足度は88%でありやや低下した。(△) 生徒の満足度は平成26年度73%と上昇した。(◎) 2. 27年度以降、全学年募集学級+1学級による少人数展開を実施する体制を整備した。不足していた電子黒板・エアコンを3教室に設置し、総合的な学習の時間を副担任から担任に移動させた。これにより永続的に実施する体制が整った。(◎) 3. SC及び導入初年度にあたるSSWを効果的に活用できた。退学者・留年生・懲戒処分者の結果は年度末を待ちたい。(?)
(2)(6) 確かな学力の活用 定着及び	1. わかる授業の一層の推進 2. 漢字力・英語力の向上	1. 全ホームルームクラスに導入した電子黒板を活用した研究授業など授業改善をおこなうための研修を充実させる。 2. モジュール授業、グループ学習など先進事例の視察を行う。 3. 漢字力、英語力を養成するために、1年生全員に漢字検定、2年生全員に英語検定を受検させるとともに、4級合格率増加のための方策をとる。	1. 電子黒板を活用した授業を現在の2割から3割に増やす。 学校教育自己診断の授業がわかりやすく工夫されているという生徒の満足度を平成25年度65%からあげる。 2. 校内研修で成果を還元する。 3. 1年で漢字検定4級合格率が40%以上をめざす。 国際文化コースにおける英語検定4級合格率50%以上をめざす。	1. 初任者の協力もあり、電子黒板を活用した研究授業を6回実施した。座学において現在の活用率は3割を超えている(○) 授業がわかりやすく工夫されているという生徒の満足度は66%であり、微増に留まった(○) 2. グループ学習について職員会議の場で研修成果を報告した。(○) 3. 漢検の実施は1月16日、英検の実施は1月23日で合格率は3月末までに確定する。(?)
(3) 部の活性化	1. 部活動の加入率をあげる	1. 加入率の増加させる。 顧問による中学校訪問を定着させる。	1. 現在30%の加入率を35%とする。	1. 加入率30%であり、改善の工夫が必要である。(△)
(4) 進路指導の充実	1. 大学進学希望者に対する指導の充実 2. キャリア教育の推進	1. 大学との連携を継続するとともに新規連携校を模索する。 H25年度の取り組みを継続し、桃山学院大学・プール学院大学・帝塚山学院大学・太成学院・大学近畿大学等との連携を継続するとともに強化する。 ・保護者に対して奨学金や国の教育ローンの説明会を1学期に実施し、大学進学への資金計画をサポートする。 2. 看護系・保育系の針路に対応した指導を開発する。 3. グアムへの修学旅行を実施し、グアムの高校生徒との国際交流を推進し定着させ、生徒のグローバルな視点を持たせる。 4. 学年主導から進路指導部主導のキャリア教育に転換し、3年間を見越したキャリア教育を推進する。	1. 大学進学者数30名以上を定着させる 2. 看護系、保育系の短大、専門学校の希望者を合格させる。 3. グアム修学旅行にたいす学校教育自己診断の生徒・保護者の認知度をあげる。 4. 平成26年度の年度末の就職決定率95%以上を定着させる。 就職試験1次合格者を60%以上を定着させる。	1. 2. 大学進学者が2割増加し29名であった。プール学院4名、帝塚山学院7名など連携が進んでいる。(○) 7月に大学進学対策室を立ち上げ、大学・看護専門学校進学への支援、特にきめ細かい個別進学指導に取り組む体制を整えた。(◎) 近年合格していなかった看護専門学校に4名合格者を出すことができた。(◎) 保育系の短大・専門学校に11名合格させた。(○) 3. 保護者の認知度は90%から94%に、生徒の認知度は、77%のままであった。(○) 修学旅行参加生徒の満足度は92%で否定意見は0であった。(◎) 4. 1月末現在も就職決定率は96%であり、目標を達成した。(○) 1次合格率は、74%であり目標を大幅に上回った。(◎)
(5) 環境教育の推進 及び地域貢献	1. 校舎内外のオアシス化 2. ホタルの人工飼育継続及び発展 3. 近隣施設や地域との交流の推進	1. 花壇づくりにより環境教育を推進するとともに、校舎内外のベンチ等を充実させ、会話が弾む学校づくりを推進する。 2. H21年度から開始したホタルの人工飼育を改良し幼虫の生存率を上げる。 ・サポーターとしての保存会と連携を深める。 3. ハートピア泉北(老人介護施設)や太平寺幼稚園、福泉中央保育所など地域の施設との交流を推進する。 ・農業実習を通じての地域との交流を推進する。	1. 花壇や校舎内外のベンチをトータルで10以上増やす。また、気持ちを和ませるオブジェ等を5ヶ所以上の設置する。 2. 保存会との連携により平成26年の6月には100匹以上の成虫を乱舞させる。 3. 地域、生徒と近隣施設との交流を10回以上おこなう。	1. 校舎内外のベンチは20か所ほど設置した。24節季の額、観賞植物など10か所において新たに設置し、生徒、保護者に好評であった。(◎) 2. ほぼ達成した。6月中旬にホタル観賞会には、2日間で750名の見学者があり、内100名は本校生徒。地域・生徒の認知が大いに進んだ。(○) 3. ボランティア部参加によって、軽音楽部・アコースティック部・図書部・ダンス部と合わせて20回以上の交流を持つことができた。(◎)